J-Beauty及びウェルネス分野における地域産業クラスター計画の概要
～日本随一のコスメティック構想で佐賀の美と健康を世界標準へ～

様式１－２

１．産業領域

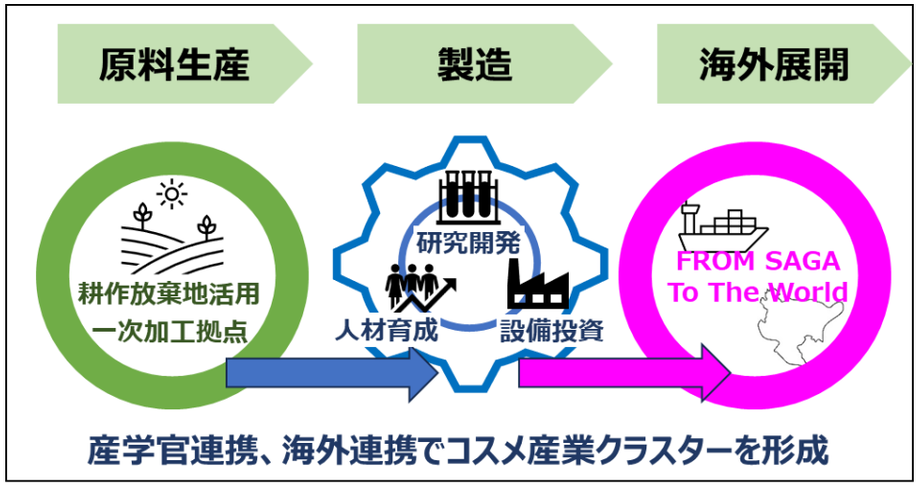
コスメ関連産業を中心とするJ-Beauty及びウェルネス領域、農林水産業、観光業など

＜特定の理由＞

本県では、**佐賀県を「アジアーのコスメ産業の拠点」とするコスメティック構想**に取り組んでおり、これまで10年にわたって佐賀ならではのクラスター形成を進め、構想段階ではなく、実際に「産業が大きく動いている」段階に入っている。佐賀大学に国公立大初となるコスメティックサイエンス学環が新設されるなど、人材育成も進んでいる。

２．対象エリア

唐津市、玄海町、佐賀市、鳥栖市、鹿島市、小城市、神埼市、嬉野市、基山町、吉野ヶ里町



３．目指す姿（目標）

世界最大級のコスメ産業集積地『フランスコスメティックバレー』の前会長であるアルバン・ミュラー氏の提言を受け、佐賀県を「アジアーのコスメ産業の拠点」とするコスメティック構想がスタート。

✓**アジアのゲートウェイ**という土地の利

✓**自然由来の原料の供給**基地

ということをバックグラウンドに、企業・大学・行政などで構成される産学官連携組織「ジャパン・コスメティックセンター（JCC）」を中心として、これまで10年にわたって佐賀ならではのクラスター形成を進めてきた。

✓約10年で**化粧品関連産業17社が立地**

✓**化粧品生産額はこの10年間で倍増**（全国的には微減）

✓佐賀大学に**国公立大初となるコスメティックサイエンス学環**の新設

✓国際的な化粧品クラスター組織（GCC）のアジア部門への参画

✓企画から流通までのトータルコーディネートの実現

など、構想段階ではなく、実際に「産業が大きく動いている」段階に入っている。

今後は、県内化粧品生産額がこの10年間で倍増した実績を足場に、国内市場に加え、アジア、欧州、北米等の海外需要を獲得する産業クラスターへ拡張する。

４．勝ち筋

県産の自然素材など、その安心感による海外需要の獲得、メンズコスメなど新たな市場の拡大など、今後の**コスメ産業の伸びしろ**を踏まえ、以下に強力に取り組んでいく。

●「J-Beauty産業の推進体制と連動した地域産業クラスターの確立」：

J-Beauty産業振興の国の動きと連携し、佐賀県及び北部九州地域のコスメ産業クラスターの構築を加速

●「研究開発・人材育成拠点の高度化」：

佐賀大学コスメティックサイエンス学環や佐賀県工業技術センターを核とした世界をリードする技術者・研究者を育成・誘致する知の拠点を構築、創薬のデータ解析等に係る共同利用等の環境整備

●「国産自然由来原料の戦略供給地化」：

化粧品メーカーが安定的に採用できる原料供給機能を構築。耕作放棄地、未利用資源、副産物等の高付加価値化にも取り組み、農林水産業とコスメ産業を結び付ける。

●「アジア市場を起点とする海外展開のハブ化」：

「コスメ国際フォーラム2027inSAGA」（2027年に開催）を国際的な情報発信、投資誘致、商談、共同研究の起点として位置づけ

５．政策手段

(1)産学官連携による強力な伴走支援体制の構築

海外の国家戦略レベルの支援に対抗するため、佐賀県とJCCが中核となり、佐賀大学とも連携して産学官連携による地域におけるワンストップの支援体制を構築する。

(2)アジアのコスメビジネスの拠点化

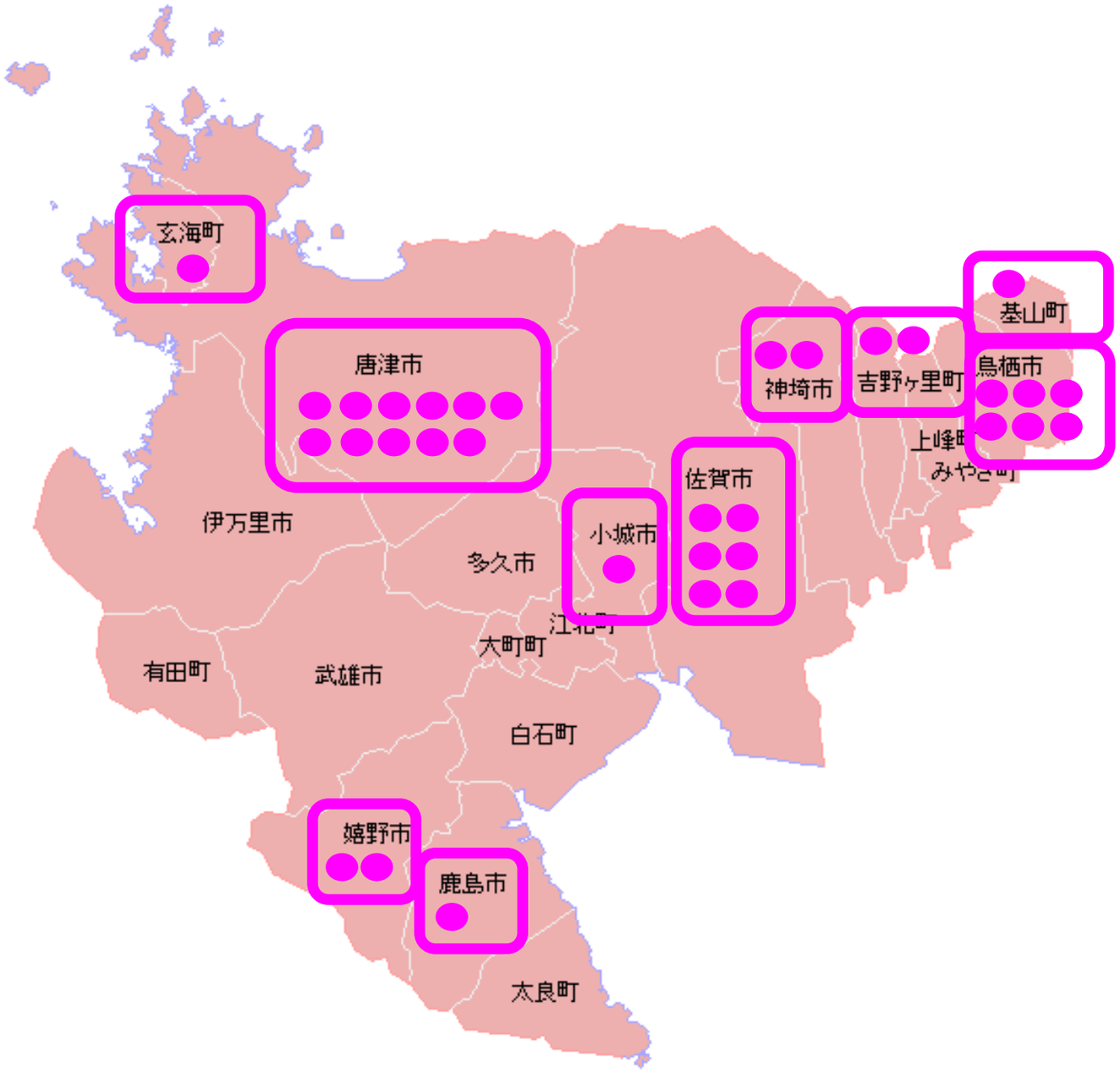
2027年開催の「コスメ国際フォーラ2027inSAGA」を契機に、海外のコスメ産業クラスターとの連携を深め、アジアにおけるコスメビジネスのハブ拠点となる。

(３)人材育成

佐賀大学コスメティックサイエンス学環による人材育成を中心に、大学教育、社会人向けリスキリング、企業実務研修を連動させ、研究開発、品質管理、海外規制、ブランド戦略、デジタルマーケティング等に対応できる人材を継続的に育成する。

J-Beauty及びウェルネス分野における地域産業クラスター計画の概要
～日本随一のコスメティック構想で佐賀の美と健康を世界標準へ～

様式１－２



核となる事業者

株式会社ブルーム（検査分析）
松浦通運株式会社（通関、物流）
株式会社トレミー（OEM・ODM）
岩瀬コスファ株式会社（原料商社）
本州印刷株式会社（パッケージ製造）
株式会社BEAUTYCLE（容器製造）
東洋ビューティ株式会社（OEM・ODM）
ほか　計３３者

唐津コスメパーク
（唐津市のコスメ企業の集積地）



株式会社BEAUTYCLE、東洋ビューティ株式会社
（県内各地でコスメ企業が集積）



